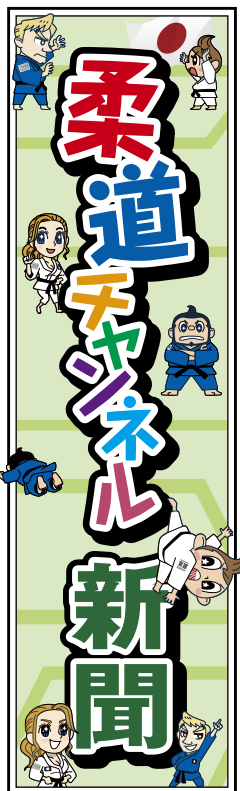




▲胸上げをされ満面の笑顔を見せる敬愛高校吉元幸晴監督

敬愛高校、金鷲旗連覇で 悲願の 高校三冠に王手!!



高校生の夏のビッグイベント第二弾、金鷲旗高校柔道大会が福岡県福岡市のマリンメッセ福岡にて、7月21日、24日の会期で開催された。(21日は開会式のみ)。100周年を迎えた今大会には、男子313校(中国からの招待1校)、女子158校(韓国と香港からの招待それぞれ1校)が出場し、例年にもまして熱い戦いが繰り広げられている。

22日、23日の両日で行なわれた女子団体戦は、連覇を狙う地元・福岡県の敬愛高校が、前評判通りの強さで勝ち上がり、昨年の決勝と同カードとなった大成高校(愛知県)との決勝で、大将同士の接戦を制し、2年連続5度目の優勝を飾った。

シード校の川口総合高校が 3回戦で天理高校に敗退

2日間で行なわれた女子団体戦の1日目(22日)には1回戦から4回戦までが行なわれ、16校が5回戦に進出。今大会のシード校(高校選手権ベスト8校)のうち7校は順当に勝ち上がったものの、川口総合高校(埼玉県)は3回戦で天理高校(奈良県)に大将同士の戦いで敗れた。

また、地元福岡県の南筑高校は、世界カデ70kg超級チャンピオン、1年生エースの素根輝が大将として大活躍。4回戦の熊本西高校戦でも逆転劇を演じ、チームを5回戦に導いた。

5回戦に進出したのは、敬愛高校、比叡山高校(滋賀県)、天理高校を大将同士の接戦で下した鹿児島情報高校(鹿児島県)、創志学園高校(岡山県)、藤枝順心高校(静岡県)、南筑高校、長崎明誠高校(長崎県)、沖縄尚学高校(沖縄県)、大成高校、鶯谷高校(岐阜県)、富士学苑高校(山梨県)、群馬常磐高校(群馬県)、東大阪大敬愛高校(大阪府)、淑徳高校(東

京都)埼玉栄高校(埼玉県)、國學院栃木高校(栃木県)を僅少差で破った八千代高校(千葉県)の16校。大きな波乱はなく、ほぼ順当な勝ち上がりと言えた。

快進撃・南筑。1年生エース 素根の活躍でベスト4に進出

試合2日目は5回戦から行なわれたが、南筑の1年生素根がここでも抜群の強さを発揮。藤枝順心の次鋒から大将までの4人をごぼう抜きして準々決勝進出を決めた。



▲5回戦。南筑は1年生エース素根の活躍で藤枝順心に逆転勝利

その他、敬愛は比叡山に不戦2人残り、創志学園は鹿児島情報に不戦2人残り、大成は鷺谷に不戦3人残り、富士学苑は群馬常磐に不戦2人残り、長崎明誠は沖縄尚学に不戦2人残り、快勝。東大阪大敬愛と埼玉栄もそれぞれ淑徳、八千代との接戦を制して8強入りを果たした。

【準々決勝】

敬愛高校 vs 創志学園高校
南筑高校 vs 長崎明誠高校
大成高校 vs 富士学苑高校
東大阪大敬愛高校 vs 埼玉栄高校

敬愛は2枚看板の二人、昨年のインターハイ70kg級王者の新森涼の2人抜きもあり、難なく準決勝進出。



▲準々決勝。敬愛・中堅の新森が創志学園の小林に支釣込足で快勝

敬愛と大成が前評判通りの強さ 2年連続で決勝対決に

大成と富士学苑の対戦は、富士学苑大将、世界ジュニア57kg級チャンピオンの舟久保遥香が2人抜きで大将同士の戦いに持ち込んだものの、最後は体重差約50kgの大成・糸田晴乃に抑え込まれて万事休す。地力に勝る大成が準決勝進出を決めた。また、南筑は長崎明誠戦でも中堅から大将までの3人を、大将・素根がすべて大内刈で破る驚愕の強さを発揮。初のベスト4進出となった。東大阪大敬愛と埼玉栄の対戦も接戦となったが、東大阪大敬愛・大将の嘉重春輝が2人を抜く殊勲を見せ準決勝進出を果たした。

【準決勝】

敬愛高校 vs 南筑高校
大成高校 vs 東大阪大敬愛高校

南筑の躍進により、地元同士の対戦となった準決勝。しかし、連覇を狙う優勝候補筆頭の敬愛と南筑の力の差は歴然、不戦2人残しで敬愛が決勝進出を決めることとなった。

敬愛は先鋒の太郎丸夏帆が、南筑・先鋒の手嶋美代を袈裟固、次鋒の

上津原萌芽を横四方固で破り、次鋒の中原爽も中堅・古野彩佳を横四方固、草場菜々美を「反則」で破って南筑・大将の素根を引っ張り出すと、中原は横四方固で敗れるも、続く中堅の新森が、疲れの見える素根を攻め込み「指導3」を奪って快勝。

ここまで素晴らしい活躍を見せた1年生エースの素根だったが、新森には為す術なしの内容だった。敬愛は副将・三苦桃子、大将・児玉ひかるの2人を温存したまま決勝進出となった。



▲準決勝。南筑の大将・素根を押し込む敬愛の中堅・新森

もう一方の準決勝、大成と東大阪大敬愛の対戦は、東大阪大敬愛・先鋒の出村花恋が横四方固「技あり」で大成・佐藤陽子を破って東大阪大敬愛が先制するも、続く大成の松井絵名が出村を内股で蹴すると、続く次鋒の東加珠を「指導2」、中堅の角谷ゆきのを反則で破って3人抜き。4人目の浜野未来には「指導3」で敗れるも、チームに大きなリードをもたらした。大成は続く中堅の和田梨乃子が東大阪大敬愛・副将の浜野未来を払腰で破り、大将の嘉重春樺を引っ張り出すも、ここで嘉重が意地を見せ、和田に背負投で一本勝ち。しかし、



▲準決勝。大成・次鋒の松井が東大阪大敬愛・先鋒の出村に内股で一本勝ち

敬愛が昨年に続き大成に勝利 2年連続5度目の優勝飾る

東大阪大敬愛の踏ん張りもここまで。大成・副将の岡田螢が体落「有効」からの崩壊姿固で完勝。大成が不戦1人残して決勝に進出した。結局、決勝は、大会前の予想通り、昨年同様の「敬愛vs大成」のカードとなった。

【決勝】

敬愛高校 vs 大成高校
先鋒)太郎丸夏帆 山内もも
次鋒)小柳穂乃果 松井絵名
中堅)新森涼 和田梨乃子
副将)三苦桃子 岡田螢
大将)児玉ひかる 糸田晴乃

昨年のインターハイ王者の新森と今年の高校選手権無差別王者の児玉という、2人のポイントゲッターを抱え、優勝候補の筆頭と言われた敬愛。しかも、副将の三苦と大将の児玉は決勝まで出番なし、次鋒の小柳もここまで温存してきて、ここで初めて起用という「余裕」を感じさせる布陣で決勝に臨むこととなった。

一方の大成も、温存してきた山内もを先鋒に入れ、バランスのとれた布

陣となった。

まずは先鋒同士の対戦。山内が起用に応えるように序盤から、背負投、袖釣込腰など、積極的な攻撃を見せて太郎丸を翻弄。「指導2」の差を付けて優勢勝ちし、まずは大成が先行。

敬愛・次鋒の小柳も、今大会初の試合ということで元氣いっぱい。得意の内股で攻め込み、山内から「指導2」を奪って勝利し、ふりだしに。

小柳と松井による次鋒同士の戦いは、170cm78kgと体格に勝る松井が小柳(160cm63kg)の奥襟を掴み左の外刈や大内刈で攻め込んで「指導2」優勢勝ち。再び大成がリードした。

しかし、ここで出てきた敬愛・中堅の新森が松井を攻め込んで「指導3」優勢勝ちすると、続く大成・中堅の和田には、見事な支釣込足で一本勝ち。そして大成・副将の岡田とはきつちりと引き分け、1人リードの状態でも副将にバトンタッチした。



▲決勝。敬愛・新森が組み際の支釣込足で一本勝ち

後のない大成は、大将の糸田が奮起し、副将の三苦を小外刈「有効」からの崩上四方固で破り、児玉との大将对決に持ち込んだ。

高校選手権の決勝でも対戦している両者。そのときは糸田が気迫あふれ

る試合を見せたものの、地力に勝る児玉の内股「本」が決まっている。リベンジに燃える糸田であったが、高校選手権の個人戦も制している長身の児玉に、どうしても組み負けてしまい、思うように技が掛けられずに「指導」2つを取られてしまう。その後、糸田は必死の反撃に出るも、バランスのいい児玉を崩すには至らず、そのままタイムアップ。敬愛が前評判通りの強さを発揮し、見事2年連続5度目の優勝を果たし、高校三冠に王手をかけた。



▲大将同士となった決勝戦。地力に勝る児玉が優位に攻め込む

試合後、敬愛の吉元幸洋監督は「最終的には(決勝では)3年生が力を出し頑張ってくれたが、それまでは、2年生がよくやってくれた。それにより決勝に力を温存できたというのが大きかった。1、2年生にとつてはいい経験ができたと思う。優勝候補と言っても、どんな展開になるかはやってみないと分からない。それは選手たちにもよく言ってきましたし、控えの選手たちにも、いつ出番が来るか分からないから、しっかりと準備しておくようにと言っていました。チャレンジャーの気持ちで、一戦一戦最後まで諦めずに戦うことができたのが勝因だと思いま

す。高校三冠に近づきましたが、反省すべき点もありますので、それを生かし、三冠を意識しすぎずに、インターハイに臨みたいと思っています」と表情を引き締めた。

インターハイまでわずか1週間あまり。例年にも増して大会の間隔がないだけに、コンディションの調整は困難だと思われる。とはいえ、条件はどの学校も同じ。果たして約1週間後のインターハイで笑うのはどの高校になるのか!?



▲100周年記念大会で、地元の学校として見事な優勝を果たした敬愛高校

平成28年度 金鷲旗高校柔道大会 女子団体戦の結果

優勝	敬愛高校
	大成高校
	南筑高校
	東大阪大学敬愛高校
準優勝	
3位	埼玉栄(埼玉県)
	東大阪大学敬愛大阪府
	富士学苑(山梨県)
	大成(愛知県)
4位	長崎明誠(長崎県)
	南筑福岡県
	創志学園(岡山県)
	敬愛(福岡県)